千葉日報

公立高校 後期選抜試験 問題と解答掲載

発行所 郵便番号260-0013 千葉市中央区中央4丁目14番10
千葉日報社
電話 043(222)9211
©2017
3月2日(木)

芝工業 素晴らしい地球

ことしの出題傾向

国語 文章の読み取り中心

大問の構成は昨年度の後期試験からの変更点は見られず大問七題の構成で配点も変更は見られなかった。出題の中心は文章の読み取りになっている。

大問一は聞き取りの問題で、昨年度と同様、放送の間に設問がはさまる形式であった。難易度は昨年と同程度であった。

大問二・三は漢字の読みと書きの問題で、書きの四文字熟語以外は平易であった。

大問四は物語文の読解問題であった。昨年度に比べると難しい問題がなく平易になっている。大問五は説明文の読解問題であった。昨年度に比べて記述式の問題の難易度が下がっている。

大問六は古典の問題であった。小問3以外は平易な問題が多く得点しやすくなっている。

大問七は作文であった。二つのことわざから自分の意見に合うものを選び、それを文に取り入れて書く形になっている。そのため、ことわざの意味と文章がはさまる形式であった。難易で難易度は高くなっている。

全体としては、聞くこと・読むこと・書くことがバランスよく出題されている。昨年度と比べると難易度の高い問題を減らし平易な問題を増やしているので平均点は上がるのではないだろうか。（金坂 智行）

数学 前期同様易しい問題

昨年度と同様の大問五題構成で、出題内容などは昨年度後期とほぼ同じであった。

大問1は計算問題で、これは昨年度後期同様。問題のレベルも同程度だった。

大問2の小問集合は「資料の整理」「空間図形」「二次関数」「確率」「作図」。全体的に平易だが(5)の作図では円周角の定理を二つ使うもので、正三角形を中心角とするように作図することが思いつかない受験生も多かったのではないか。

大問3は、前期に続き平易な「二次関数」の問題で、取り組みやすかったのではないか。

大問4は「平面図形」で、相似を利用した問題。「証明」も途中まで印刷されているので二角相等の相似条件もすぐに見つかったはずだ。(2)の線分の長さがやや難しい。(1)からBR＝DRなので、△APR≡△CDRの相似と△APDで三平方の定理を使えば、線分比から容易に解けたはず。

大問5も平易な平面図形。以上のように前期同様かなり易しい問題であるが、時間配分が難しい。平均点は昨年度後期と同程度くらいになるのでは。（佐藤 健太郎）

英語 リスニングが8点増

大問の構成は昨年度後期と同様で六題構成であった。

大問1のリスニング問題は昨年度と同形式の5問に単語を聞き取って書くという新しい形式の問題が2問加わり8点増となったが、全体的には平易な問題が多かった。

大問2の文法問題は語形変化の問題がなくなり、語順整序3問のみとなっていた。

大問3は英作文。「勉強するのに適しているのは朝か夜か」という問いに自分の考えも加えて答えるという問題であった。

大問4は短文の読解問題が2題出題されており、内容理解とともに語句の知識も試された。

大問5は長文読解問題で、英文自体の難易度は高くないが、文挿入や内容要約など様々な形式で出題され、戸惑った受験生も多かったのでは。

大問6は会話文の適文選択問題で、難易度は比較的低め。

前期と同様「聞くこと」が重視されたが、全体的には、3技能がバランスよく出題されていた。平均点は、昨年度後期ほどではないにしてもやや高めになるのではないだろうか。（横内 美保）

理科 計算、記述少なく平易

昨年度後期と同じ大問八題構成で、各大問の配点もほぼ同じである。出題分野は物理・化学・生物・地学から、また履修学年も中一から中三までバランスよく出題されている。

大問1はタマネギの根の観察について。記述もあるが平易な問題だ。大問2は音について。実験内容を丁寧に読み取れたかがポイントだ。大問3は天気の変化。天気図が最近の天気そっくりなので、天気予報などにふだんから興味をもっている生徒には易しかったはずだ。大問4は金属とろうについて。通常は図から読み取らせる体積が問題文の中にあるので間違いようがなかったのでは。大問5は心臓のつくりと血液循環について。大問6は塩酸と塩化銅の電気分解について。イオン式や化学反応式が全くでてこない知識だけで解けてしまう問題。大問7は運動とエネルギー。大問8は化石について。

全体的に計算問題や記述問題がほとんどなく、かなり大雑把な知識があれば正解できてしまう問題がほとんどだった。このため平均点も昨年度よりもかなり高くなるのではないだろうか。（白石 幸司）

社会 歴史・公民分野に難問

大問構成は昨年と同じで、小問数にも変更はなかった。出題内容も変更はなく、地理・歴史・公民がバランスよく出題されている。全体としては、基礎的な知識を問う問題が多かったが、歴史分野と公民分野では難度の高い問いもみられた。

大問1は総合問題で、基礎的な理解が求められた。

大問2は日本地理で、語句の選択、表・地形図の読み取りが出題された。どれも易しかったであろう。

大問3は世界地理で、基礎的な問いが多く、資料の読み取りで差がでる程度であろう。

大問4・5は歴史分野で、整序問題と近現代史は難度が高かったのではないだろうか。昨今の近現代史では細かな知識まで要求されている。

大問6は公民の政治分野、大問7は経済分野であった。両問ともに基礎知識を問う問いが多かったが、25字以内で解答する記述式の問いは、正確な知識がなければ答えられず難しかったと言える。

全体としては易しく、平均点は昨年より上がるだろう。（屋代 勇二）